

美星じいじの特別な梅干し

新見市立矢神小学校

四年 清水 凜 歩

私は梅干しが大好きです。でも、ふつうの梅干しはなぜかおいしく感じません。特別なあの梅干しじゃないとダメ。それは、私の大好きな美星じいじのつけた梅干しです。

美星じいじの梅干しは、世界一です。四才の時に初めてじいじが作った梅干しを食べて、

「めっちゃすっぱい。それに冷たい。」

と、あまりのすっぱさにびつくりしました。でも、なれていくと、そのすっぱさもあまずっぱく感じるようになりました。なので、今でも、他の梅干しをお店で買って食べると、

「なに、これ、梅干しじゃない。」

と思ってしまう。

美星じいじの梅干しは、大きめで色はしぶい色をしています。私は梅干しをつけたことがあります。でも、梅の木に登って梅を取ったことはありません。その時に見た梅の色は緑色だったのに、どうやってあんな赤色になるのか不思議でした。でも、つけた梅干しの色があまり赤色にならなかった時に、

「しそが少なかつたかなあ。」

と美星じいじが言っていたので、しそがないと赤色にはならないのかなと思いました。

美星じいじの梅干しは、くらのつぼの中につけています。

私はいつも、美星じいじの家に行くと、タッパーを持って一しよに梅干しを取りに行きます。美星じいじは、わりばしでつぼの中をガサガサとまぜているので、

「何しているの。」

と私が聞くと、美星じいじは、

「これは、まぜているんじゃない、やわらかい梅干しを見つくとんよ。」

と教えてくれました。私はやわらかい梅干しの方が好きなので、

「やったあ。またたくさん食べられる。」

とうれしくなりました。

「これ、味見してみい。」

と言ってわたしてくれた梅干しを、美星じいじと一しよに食べました。一つぶ丸ごと食べました。この時に食べる梅干しは、れいぞう庫に入れてあるいつもの梅干しとは少し味もちがって、特別な感じがします。そう、美星じいじの梅干しの中でも特別なのです。だから、私は、美星じいじと一しよにくらに行くのがとても楽しみでした。

でも、今年の夏、とても悲しいことが起きました。美星じいじが天国に行ってしまったのです。もう、美星じいじに梅干しの作り方を聞くこともできません。一しよに作っ

て見たかった私の大好きな梅干し。私は、来年の梅の季節には、梅を取り、つけ方を調べて、がんばって美星じいじの梅干しをつけようと決めました。出来上がったら一番に美星じいじにあげたいです。「おいしい」と言ってくれるかな。じいじの味に近づけるかな。

今、くらにある梅干しは、美星じいじとの大事な思い出の梅。大好きな美星じいじのことを思いながら大切に食べようと思います。